

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
地 歴	日本史 B	3学年 普通科 文系 理系	4単位 3単位	詳説日本史 B (山川出版社)	最新日本史図表(第一学習社) ポテンシャル日本史(山平商会)

到達目標	① 日本史の基礎的な知識を身に付け、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする。 ② 日本史の学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。
------	--

評価の観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	日本の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的に捉えて理解していると共に、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか。	日本の歴史の展開に関わる事象の意義や文化などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察しているか。	日本の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うと共に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して他国や他国の文化を尊重することの大切さについて深めようとしているか。

学習の評価	① 定期考査において、A 知識・技能、B 思考・判断・表現を主に評価する。 ② 論述やレポートの作成、小テスト等で A 知識・技能、B 思考・判断・表現を、論述やレポートの作成、課題への取り組み方等で C 主体的に学習に取り組む態度を主に評価する。 ① ②の評価および出席状況を加味し、総合的に評価する。
-------	---

単 元	学習内容	到達目標
第 I 部 原始・古代	第 1 章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立	(ア) 旧石器時代から縄文時代にかけての人々の生活の変化を環境の変化を踏まえて考察できる。
	第 2 章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	(イ) 原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を 通観する問いを表現できる。
	第 3 章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	(ウ) ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察できる。 (エ) 律令制定の背景や意義を東アジア世界の変化を踏まえて、理解できる。
	第 4 章 律令国家の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	(オ) 平安時代において、律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察できる。

第Ⅱ部 中世	第5章院政と武士の躍進 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権	(ア)院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の 政治・経済・社会・文化を理解できる。
	第6章武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	(イ) 古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現できる。 (ウ) 鎌倉時代において、武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察できる。
	第7章武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	(エ) 室町時代において、庶民の活動が社会秩序の変革 の原動力として成長していったことを踏まえて、 幕府の動揺や下剋上の風潮を考察できる。
第Ⅲ部 近世	第8章近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化	(ア) 大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、 ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察できる。
	第9章幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定 4 元禄文化	(イ) 中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現できる。 (ウ) 江戸時代前期の特色を平和と秩序の視点から、権力の集中や価値観の変化を踏まえて考察できる。
	第10章幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	(エ) 幕藩体制が動揺した原因を、国際環境の変化や貨幣経済の浸透を踏まえて多面的・多角的に考察できる。
第Ⅳ部 近代・現代	第11章近世から近世へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足	(ア) 日米和親条約・修好通商条約締結、開港による経済・社会の情勢変化に着目して、政局への影響を考察できる。 (イ) 公武合体、尊王攘夷、倒幕の動きに着目して、権力構造の変化を理解できる。
	第12章近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	(ウ) 廃藩置県・徴兵制・四民平等・秩禄処分・地租改正・殖産興業政策に着目して、明治政府が中央集権体制を構築していく過程を考察できる。 (エ) 国会開設要求の運動などに見られる国民の政治的関心の高揚と挫折の過程について考察でき。また、憲法の特徴、議会と内閣の在り方などを通して、戦前の立憲制の仕組みを理解できる。
	第13章近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際社会 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制	(オ) 殖産興業政策を基礎に産業基盤の整備が進み、繊維部門での産業革命以降、製鉄・造船などの重化学工業の形成、鉄道・海運の伸張、財閥の形成、寄生地主制の成立などを相互に関連づけて考察できる。
	第14章近代産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化	(カ) 第一次護憲運動による大正政変以降、政党勢力が国民統合の中心的役割を果たしていく過程を理解し、欧米からアジアに至るまで広い範囲の国際環境の推移に着目し、対華二十一カ条要求・シベリア出兵が国内外に及ぼした影響について考察できる。
	第15章恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦	(キ) 戦後恐慌・金融恐慌・昭和恐慌を取り上げ、背景となる関東大震災・金解禁・世界恐慌との関連を含めて理解できる。
	第16章占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	(ク) 連合国と枢軸国の性格の違いや国民生活の犠牲のうえに成り立っていた総力戦体制などを踏まえ、日本がアジアの諸国に多大な損害を与えたことや広島・長崎への原爆投下など日本も空前の戦禍を被ったことに着目できる。
	第17章高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度経済成長	(ケ) GHQによる諸政策が、対日占領政策に基づくとともに、日本の国民の戦争に対する反省に支えられて実施されたことに気付く。 (コ) サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義と、安全保障をアメリカに依存する日米安保条約の締結の意味を考察できる。

	第 18 章激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容	(サ) 日ソ共同宣言をはじめとするサンフランシスコ非調印国との国交交渉と、国際連合加盟の意義を理解できたか。また、その後の新安保条約・LT貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などを取り上げ、外交・政治の再編過程を把握できる。 (シ) 冷戦終結後の東欧革命、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを取りあげ考察できる。
--	--	--